

人間ハ萬物ノ靈ナリ而シテ心ハ人間ノ靈ナリ故ニ其運動ノ方向如何ハ最大ナル關係ヲ人事ニ及ボ  
スモノニシテ其人事ノ運動ノ主動者トナル可キ重任ヲ有スルモノ焉シテ此意ヲ考究セズシテ可  
ナラシヤ蓋シ事ヲナスノ大本此意如何ニ存スレハナリ語ニ曰ク古ノ天下ヲ平ニセント欲スルモ  
ノハ先ツ其國ヲ治ム其國ヲ治メント欲スルモノハ先ツ其家ヲ齊ヘント欲スルモノハ  
先ツ其身ヲ修ム其身ヲ修メント欲スルモノハ先ツ其意ヲ誠ニス」ト松風ノ音ノ鳴初メノ大切ナ  
ルコトハ推知スルニ餘裕アラシ

## 賭博勝敗數理ノ判斷

教授

杉山岩三郎

博奕ノ其產ヲ破リ其恒心ヲ害フ人皆ナ之ヲ知レリ之ヲ知リツ、之ヲ試ミル者多キハ何ツヤ其原  
因一ニシテ足ラズト雖万一ヲ僥倖シ勞セズシテ一朝暴富ヲ得ントスルノ欲望其多キニ居ルベシ  
而シテ世人此欲望ノ成敗ヲ以テ天運ニ任セ敢テ之ヲ攻究スルモノナシ否ナ之ヲ攻究セントスル  
モ數理ヲ知ラザレバ能ハザルベシ唯タ夫レ數理ヲ知ラス故ニ漠然所由ナキノ空望ヲ抱キテ其身  
ヲ過リ其家ヲ失フモノ少トセス

數學上賭博保險ノ類ヲ論スルモノヲ適隔法ト云フ即チ云々ノ事情ヨリシテ云々ノ結果ヲ生ズル  
コト多分ラシサヲ計算スル法ナリ例ヘバ立方形ノ骰子ヲ投シテ其上面ノ黑點一ナルコトノ適遇ハ六  
分ノ一、一或ハ二ナルコトノ適遇ハ  $\frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{6}$  乃チ三分ノ一ナリ又甲乙兩個ノ骰子ヲ同時ニ投



(二) 今回ノ勝負ニ敗レテ後チニ全ク敗ニ至ル

今甲ノ今回ノ勝負ニ勝チ或ハ敗スルコトノ適遇ハ各々二分ノ一ニシテ若シ甲ニシテ此勝負ニ勝ツ

ルハ其囊中 $X+1$ 圓トナリ而シテ其全敗ノ適遇ハ $F(X+1)$ トナリ或ハ又甲ニシテ此勝負ニ敗スル

ルハ其囊中 $X-1$ 圓トナリ而シテ其全敗ノ適遇ハ $F(X-1)$ トナリ今是等ヲ熟考シ且ツ前ノ(一)及

ビ(二)ノ定義ヲ用エルキハ一ツノ方程式ヲ得ベシ乃チ

$$F(X) = \frac{1}{2} F(X+1) + \frac{1}{2} F(X-1) \quad \text{今少シ之ヲ變更スレバ}$$

$$F(X+1) - F(X) = F(X) - F(X-1) \quad \text{ナナルナリ}$$

ソレ故ニ $F(X+1) - F(X)$  或ハ  $F(X) - F(X-1)$  ハ全一ノ數ナリ言ヲ換ユレバ是等ノ差ハ不變ノ

數ナルベシ乃チ $F(X)$  ハ $X$ ノ一次式ニシテ其形チ $F(X) = AX + B$  ナラザルチ得ズ然ルニ

$$F(0) = 1 \quad \text{[(一)ノ定義中、(A)ニ由ル] 又 } F(A+B) = 0 \quad \text{[(一)ノ定義中、(B)ニ由ル] 故ニ}$$

$$F(0) = 1 = B \quad F(A+B) = 0 = A(A+B) + B \quad \text{乃チ}$$

$$B = 1, \quad A = -\frac{1}{A+B}$$

今是等 $A, B$ ノ値ヲ置キ換ユルキハ $F(X) = 1 - \frac{X}{A+B} + 1$  ナレリ倍テ $X = A$  トスレバ $F(A) =$

$\frac{B}{A+B}$  之レ乃チ甲ノ全ク金ヲ失フコトノ適遇ナリ次ニ $X = B$  トスレバ $F(B) = \frac{A}{A+B}$  之レ乃チ乙ノ

全ク其金ヲ失フコトノ適遇ナリ而シテ $\frac{F(A)}{A} = \frac{B}{A}$  故ニ甲乙二人ノ失敗ハ各々其對手ノ金高ニ比

例セリ再言スレハ多ク金ヲ持ツモノハ勝チヲ得ルノ望ミ多シ夫レ故ニ貧人富人ト勝負スルキハ

其敗尤モ多分ヲシ今Aヲ無限(INFINITE)ニ増ス其ハF(B)  $\frac{A}{A+B}$   $\frac{A}{A}$  乃チ乙ノ全敗ハ充分確定シタルモノナリAノ無限トハ社會ノ富ヲ指スモノニシテ乃チ一人ニシテ長ク賭博ヲナス其ハ其全敗必スヘキナリ今是等ノ結果ハ數學上ノ結果ニシテ勤スベカヲサルモノナリ故人ノ賭博ヲナス其勝ヲ得ルコト多シ然レモ永ク之ヲナス其ハ富人ト雖必ス敗ス夫ノ貧人ノ僅少ノ金ヲ持チテ万一ヲ僥倖スルモノハ必ス敗ル其敗レサル者ハ不正ノ手段ヲナシ不正ノ骰子ヲ用コルモノナラシ歟故ニ貧人ノ博奕ヲナスモノハ敗ス其敗セザルモノハ不正ヲナスモノナリ二者必ス其一ニ居レン

八代郡吉野村貝塚石器

教授 賀來熊次郎

余ハ本年一月二日湯治ノ爲メ日奈久ニ遊ベリ歸路小川町ノ近傍ナル吉野村ヨリ二三ノ石片ヲ拾ヒ歸リタルハ左ニ之ヲ話説スヘシ

肥後國八代郡中小川町ヨリ宮地ニ至ル中途ニ吉野村ノ貝塚アリ此貝塚ハ人類學研究上有用ノ材料ヲ與フル所ニシテ舊東京大學敎師モイルス氏モ此地ニ於テ研究セシト云又二三年前大學ノ若林氏モ此地ニ就テ石器類ヲ搜索セリ此貝塚ハ路傍畑中ニアレハ此地ヲ通行セル者ノ熟知スル所ナリ蓋何人ト雖モ其貝類ノ夥ク堆積セルヲ見テ一驚ヲ喫セサル者ナカルベシ此地西南ニ面シ高燥ニシテ日當リ好ク居ヲ占ムルニ最適當ナリ貝塚ノ廣サ凡二丁四方ニ涉リ厚サ四五尺ヨリ四間